

殿様の部屋 vol.11 おひなさま展

平成30年 弥生



写真1 長岡藩主牧野家のおひなさま展1 中央の段飾り



写真2 長岡藩主牧野家のおひなさま展2 会場左側



写真3 長岡藩主牧野家のおひなさま展 会場右側
(右手の掛軸が木目込みの雛人形)

平成30年、長岡開府400年を迎える記念の年に、牧野家に伝わるお雛様のすべてを一堂に飾り、長岡の皆様にご披露できたことを大変うれしく思っている。昭和47年3月に京都府立総合資料館で牧野家のすべてのお雛様を父が展示して以来、46年ぶりの公開となった(写真1～3)。

牧野家のお雛様は牧野家に嫁いでこられたお姫様やその姉妹、母上、祖母上様から送られた品々で、古いものでは江戸時代後期、一番新しいものでは私の母の品で約100年前の物である。

今回の展示にあたり、1月初めからお雛様展開催前日の2月17日まで準備をした。箱からお雛様やお道具を出すときには細心の注意を払いながら取り扱ったが、それでも破損してしまうことがあった。これを修理するのは至難の業であり、昔の人形職人の素晴らしい技術に敬意を表したいと感じた。

すべての展示物の中でも私が珍しいと思う品の一つに、女雛が持っている象牙製の扇がある。小さな扇の中に宝珠や打出の小槌、隠れ蓑、丁子など宝尽くしの柄が描かれている(写真4)。その他にお道具の木琴のミニチュア、香道で使う四種盤のミニチュア、ごく小さな象牙の内裏雛なども他のお雛様展では見か

けた事が無いと思う（写真5・6）。

長岡藩12代牧野忠訓公の正室つね姫様がお作りになった木目込みの雛人形と木村武山が描いた御殿の図の合作である大きな掛軸も、製作者が判明しているという点において貴重な品であろう。

今回、父の時代から引き継いだお雛様を展示できたことは大変うれしいことであり、ご協力頂いた方々に心より御礼申し上げますと共に、16日間の会期中に市内はもとより県外からもお出でいただいた3,495名の皆様にも心より感謝申し上げます。

今後も日本の伝統文化を大切に守り伝えていくように心がけていきたいと考えている。



写真4 象牙製の扇



写真5 四種盤のミニチュア



写真6 小さな象牙の内裏雛



写真7 オープニングセレモニー
(2月18日さいわいプラザ3階 中ホール)